

昭和62年10月15日 第27号

東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

事務局 〒102 東京都千代田区二番町4-2 電設工業健康保険組合
東京都社会保険労務士会 千代田・中央支部 TEL 03 (265) 0301 発行人 仲野 三郎

女性のトップマネジメント研究

研修委員会

と き 昭和62年6月3日

ところ 電設工業健保会館

講 師 亜細亜大学教授 馬 場 房 子 先生



去る6月3日、電設健保会館に於いて支部主催の講演会が行なわれた。大変興味ぶかい演題で、さしも広い会場もほぼ満員。我が支部所属の女性トップた

要 旨

女性トップを研究するに至った理由は、女性経営者の比率が55年の2.4%から、60年の3.9%へと年々増加しているということにある。最初の質問紙による調査では、経営者に必要とされる特性・意識・理念などで、男性経営者との性による差はみられなかった。そこで面接方式に調査を変更してみた。「トイレでも商売をやる人」「ほがらかで屈託のない人」など千差万別、個人差が大きく、女性なら従業員に気を使う母親的なタイプ。

る会員も、前席を占め傾きながら、かつ余裕をもって聞いておられる姿が、なぜか大変印象的であった。

一見研究者風の姿に似ず、メガネの奥に、かわいらしい童顔がすけて見える。推定年令45才、大変な美声の持ち主である。リズムカルで、さわやかな口調でお話は始まった。

以上分類別に変特徴があり、おもしろい。各群共通している点でもおもしろいと思うのは、

- ① 息子が後継者の場合、本人の中に中継ぎ意識があり、母親としての思い入れも激しい。
- ② 娘の場合、ムコは決して信用をしない。
- ③ 会社での首切りには、割りと大胆である。
- ④ 最初に取り引きした銀行は、やめない。
- ⑤ 目標設定が可視的で、決心したら“エイヤッ”とすぐやる。

(土井たか子 風か?)

- ⑥ 一旦成功すれば自信を持ち、「結果良ければ全て良し」で、ハチャメチャな熱意がある。
以上が講演要旨であるが、なにがおもしろ

いかと言って、人の生き様ほどおもしろいものはない。サンプル例に上らなかった多くの女性経営者と、馬場先生の今後の御活躍を祈ります。 （研修副委員長 恩田 和明）

女性社長の推移（資本金100万円以上の会社）

年 度	実 数	全社長に占める割合	備 考
昭和55年	11,612	2.4 %	
56	14,942	2.9 %	
57	17,553	3.2 %	
58	20,379	3.5 %	
59	23,021	3.7 %	

医療保険制度の現状と今後のあり方

と き 昭和62年9月4日

ところ 電設工業健保会館

講 師 週刊社会保障主幹 佐藤政男先生



今回のお話は、私どもに一番関わりの深い医療保険の問題だけでなく、講演の内容も非常に解り易く、大変勉強になりました。とくに講師は、わが国

社会保障関係の出版では随一を誇る「社会保険法規研究会」の社長で「週刊社会保障」の主幹佐藤政男先生でもあり、厚生大臣、労働大臣をはじめ本省の幹部の方々と常日頃直接お話しをされているだけに、お話しの節々に大所高所からの意見をうかがうことができました。

要 旨

政府は21世紀に向けて、医療保険を社会的公平のもとに安定した制度とするのが目的であり、昭和60年後半に予定されている医療保険制度の一元化を展望するとき、昭和59年4月実施の健保法改正（1割負担）は既にその第一弾として着手したものであること。また被用者保険制度、国民健保制度ともそれぞれの制度内において運営の効率化をはかるとともに、制度内の共同事業が進められていること。そしてさらに老人保健法を通して制度間の財政調整、共同事業の拡大が進められていること。これらはすべて制度一元化に向けて予定されたものであり着々とその方向に進ん

でいること。

ただ、この一元化の方向について、いまのところ、厚生省、日本医師会あるいは健保連において夫々に異なった意見もあるので、昭和65年の法律改正を目途に各種審議会も早急に検討に入るだろうと。

これらの内容について、先生は豊富な資料を示しつつ、解説されたので非常に参考になりました。それとともに最近私どもによく相談のある5人未満事業所の被用者保険適用についても、この医療保険制度一元化への一環として身近に感じられた次第です。

（研修委員 清水 克巳）

国民医療費の増加率の要因

		57年度	58年度	59年度	60年度
国民医療費(増加率)		7.7%	4.9%	3.8%	6.1%
増加内訳	診療報酬の改正 および薬価基準 改正による影響	—	△1.2 (58年2月) (薬価は58年1月)	△2.3 (59年3月)	1.2 (60年3月)
		※0.0	※1.3	※△2.0	※1.2
その他		7.7	6.3	5.9	4.8

※は年度平均の影響率である。

社会保険事務所長より感謝状

総務委員会

算定相談コーナー5年以上の期間協力され 呈されました。
た会員に、社会保険事務所長より感謝状が贈 本年度の該当者は次の通りです。
神田社会保険事務所長感謝状 中尾幸村
京橋社会保険事務所長感謝状 赤森伸子(敬称略)

算定基礎届相談コーナーへの協力

本年度も、算定基礎届提出期間中、各社会 ました。担当会員には、猛暑の中大変ご苦勞
保険事務所に相談コーナーが開設され、算定 さまでした。以下に実施結果をご報告いたし
基礎届等に関する相談、指導業務の任に当り ます。

(1) 実施結果

項目 社保	動員者数 (人)	延日数 (日)	指導相談事業所数	備考
麴町	16	16	113	毎日各2名
神田	16	16	136	6日間各2名、4日間各1名
日本橋	14	14	133	毎日各2名
京橋	24	24	136	毎日各3名
合計	70	70	518	

(2) 担当会員名

① 麴町社会保険事務所(8月3日～8月12日) 16名

永島 セツ, 北野 茂, 藤野 敏寛, 浦和 憲二, 国岡 喜久, 豊岡 来実, 横尾 直子,
関口 尚孝, 才木 惇, 桑原 良治, 田村 稔, 長森 敏泰, 豊福 雅典, 込山 元喜,
新井 功一, 清水誠三郎

② 神田社会保険事務所(8月3日～8月14日) 16名

金綱 久夫, 森萩 忠義, 森 莞子, 丸山 進, 柏木 弘文, 山根 松夫, 恩田 和明,
相馬 誠一, 雨宮 功, 高畠 勉, 中尾 幸村, 秋葉 俊夫, 長谷川 徹, 北島・康司,
石原 健三, 田中 守三

③ 日本橋社会保険事務所（8月3日～8月11日） 14名

佐々木俊世, 山崎 雅也, 千賀 綾二, 関口 武, 真許 隆弘, 吉本伸太郎, 石山 幸子, 朝緑陽太郎, 川合 昭子, 吉野 俊雄, 鈴木 義一, 富田 秀子, 原田 利雄, 萩原 広行

④ 京橋社会保険事務所（8月3日～8月12日） 24名

大槻 哲也, 吉瀬 君江, 川崎 ふみ, 赤松ハルミ, 大森 四郎, 河嶋 平助, 松林 清雄, 小玉 岩男, 松井 省二, 遠藤 卓己, 石井 温隆, 森 才一, 中林 政雄, 渡辺 和洋, 石川 英豊, 赤森 伸子, 荘司美恵子, 金沢 律, 小野 菊枝, 渡辺やす江, 藤原 久嗣, 富田 秀子, 小口 隆明, 飛沢 孝治 (以上順不同敬称略)

会員異動状況（昭和62年7月31日現在）

項目 地区	昭和62年3月31日現在			異 動（増減）			昭和62年7月31日現在		
	開 業	勤務等	計	開 業	勤務等	計	開 業	勤務等	計
麴 町	34	144	178	3	△ 6	△ 3	37	138	175
神 田	59	126	185	0	0	0	59	126	185
日 本 橋	31	121	152	2	0	2	33	121	154
京 橋	39	107	146	1	0	1	40	107	147
合 計	163	498	661	6	△ 6	△ 0	169	492	661

委 員 会 報 告

＜総務委員会＞

第3回 正副支部長, 委員長会議

と き 昭和62年7月1日(水)

ところ 電設工業健保会館

議 題

(1) 報告事項

(イ) 東京都社会保険労務士会理事会の結果

(ロ) 全国社労士会連合会通常総会の結果

(ハ) 部会ならびに委員会活動状況

(ニ) 第1回研修会の開催結果等

(ホ) 62年度算定基礎届に関する打合わせ

(2) 協議事項

(イ) 9月4日(金) 開催の研修会, 懇談会等の実施計画

(ロ) 10月2日～3日の第4回研修旅行

テーマ「最近の労働判例から」

講 師 明治大学法学部教授

市 毛 景 吉 先生

(ハ) 清水広報副委員長の永年の功労に対する支部長感謝状贈呈について

第4回 正副支部長, 支部幹事, 監査会議

と き 昭和62年9月4日(金)

ところ 電設工業健保会館

議 題

(1) 報告事項

(イ) 東京都社会保険労務士会各専門委員会の構成

(ロ) 東京都社会保険労務士会第1回正副会長, 各委員長, 第1, 第2部会長の合同打合会の結果

(ハ) 62年度収支中間報告

(ニ) 62年度算定基礎届相談コーナー実施結果

(ホ) その他

(2) 協議事項

(イ) 10月以降事業実施予定日について

(ロ) 9月4日の研修会および交歓会の分担

(ハ) 清水広報副委員長に感謝状贈呈

＜研修委員会＞

第2回 研修委員会

と き 昭和62年7月1日(水)

ところ 電設工業健保会館

テーマ 62年度算定基礎届について

第3回 研修委員会

と き 昭和62年9月4日(金)

ところ 電設工業健保会館

テーマ 最近の医療保険制度の現状と今後のあり方

講 師 週刊社会保障 主幹 佐藤政男先生
第4回 研修委員会

と き 昭和62年10月2日～3日

ところ 電設、家具健保組合保養所

「みやぎの」

テーマ 総務委員会参照

＜広報委員会＞

と き 昭和62年8月24日(火)

ところ 電設工業健保会館

テーマ 第26号の反省第27号の編集について
＜厚生委員会＞

昭和62年9月4日(金)午後3時45分より
電設工業健保会館において、研修会に引き続き、4社会保険事務所他関係行政機関の幹部の方々等来賓11名を迎えて盛大に懇親会を開催した。

労働保険指導員に感謝状が贈呈さる

総務委員会



本年度も、労働保険指導員に基準局長(10年協力者)、並びに監督署長(3年協力者)より感謝状が贈呈され、9月10日、7月24日にそれぞれ授与式が行なわれました。尚7月24

日午後5時より、中央労働基準監督署主催による懇親会が開催され、仲野支部長も参加されました。

東京労働基準局長感謝状	森 才一
	森 莞子
中央労働基準監督署長感謝状	石川 英豊
	渡辺 和洋
	(敬称略)

なお、労働保険指導員感謝状受賞祝賀会は昭和62年10月15日(木)午後6時より「大周楼」にて開催。

労働保険説明会

毎月開催されております労働保険新規成立事業所に対する説明会も、36回を数えるに至りました。回を重ねる毎に成果を上げ、今後引き続き開催が予定されています。

会 場：中央労働基準監督署会議室

第34回 昭和62年7月7日(火)

講 師 中央労働基準監督署給付調査官

村 上 敏

会 員 国岡 喜久、藤野 敏寛

出席事業所 22

第35回 昭和62年8月4日(火)

講 師 中央労働基準監督署給付調査官

倉 下 勝 司

会 員 才木 淳、石井 温隆

出席事業所 16

第36回 昭和62年9月8日(火)

講 師 中央労働基準監督署適用係長

田 中 健 一

会 員 町口 政二三、萩原 広行

出席事業所 14

(敬称略)

仲野支部長より感謝状が贈呈さる

千代田・中央支部広報委員 清 水 誠三郎

去る9月4日の、正副支部長、委員長、幹事会議の席上に於いて、仲野支部長より、永年にわたり、広報委員としてご尽力されてい

る、清水委員に感謝状がおくられました。



アイ、ラブ、ニューヨーク

古 川 泰 一 郎



「百聞は一見にしかず」、わが国の民衆の生活から生まれた教訓的な^{ことわざ}諺にひかれ、5月30日、アメリカ、カナダ16日の旅につく。

ニューヨークは、摂氏36度の真夏を感じる

猛暑であった。

空港管理棟の古い建物で、入国管理、税関職員の、スローモーで、かつ官僚的な取扱いにうんざりしながら、宿舎であるニューヨークの七番街、ブロードウェイの劇場街の近くにあるシェラトンセンターに向う。幸いニューヨークは移動なく、同所に5泊したので日程的に楽でした。目的は米国企業年金の資産運用調査であるので、昼間はマンハッタンのミドルにある、J E、J M、等米国の代表的企業を訪問し、夜はニューヨークの街を探訪する機会を得たが、米国人は上下の格差が激しいのに驚く。貧富の差は勿論、トップマネジメントの辺りとブルーカラーとの間に同じ国民とは理解に苦しむ程の差があった。対日本人親も単純肉体労働者は、無警戒で小馬鹿にした態度をとるが、トップ周辺は日本人(国)に理解を示すが、警戒心をゆるめないように感じた。

アメリカはいま、財政、貿易と双子の赤字をかかえ債務国となり、さらに人種問題、失業問題と深酷な社会状況であるが一方には、ニューヨーク市民は非常に明るく、たくましく文化を愛しており、活性化がある。

ブロードウェイシアターで、ミュージカル「レ・ミゼラブル」の上演を観た際、最高潮に達すると、近くの貴婦人達が、声を出して、泣き……、五番街の酒場で、正装した老夫婦が、ロマンジャズを聴き長時間食事をしながら、出演者と同和し、また若い恋人達が大利ーグの野球を観、地元チームに狂乱の応援で青春を楽しむ。

短い5日の経験であったが、超高層ビルが

連立し、全世界の金融の中心があり、ブロードウェイに世界文化が集まり、24時間国をあげて財テク活動をしている。マンハッタンをあとにカナダに向う。機会があれば、もう少し深く、どれがほんとうのアメリカなのか、みてみたいものである。

「カナダ」

トロントに2泊、カルガリ、バンフ、ナイヤガラにそれぞれ1泊とカナダは短い旅でしたが、いずれも特色のある良い街であった。

日本の28倍の国土にわずか、2,500万人が住んでいる。美しい豊かな国である。

街は整然とした家並、公園、公共施設はみな、手入れがゆきとどき、ヨーロッパのスイス山岳地帯を思い出すようなすがすがしい気になる。

経済状態は、上昇気流にあり、有数の資源国であり、北米一帯にインフレのあしおとが聞かれる今日、第一次産品の値下りは限界であり木材、エネルギー、等インフレヘッジの対象産業により、経済が活性化するので、今が絶好のカナダへの投資時期であると、担当大臣は述べていた。

そのなかで、最も心に残ったのは、カナデアンロッキーであった。バンフの国立公園の美しく雄大な姿、特に北極圏を除く地球最大の氷河期の名残りである。コロンビア大氷河、この一部に雪上車で氷河



ツアーに行き、氷原の上を歩きながらその割れ目から流れる「水」でウィスキーを飲んだ味が忘れられない。しかし、1瞬にして天気荒れる、自然の恐ろしさも感じられた。

これに比較すると、1年間に1,400万人の観光客を呼ぶナイヤガラ滝の魅力は当然ながら素晴らしいの一語につけるが、何か今一つスケールの小ささを感じた。(企業年金制度調査団の責任者として出向かれたのです。情報処理産業厚生年金基金常務理事)

会員めぐり(2)

東部金型工業健康保険組合

〒101 千代田区神田練堀町3

TEL (255) 7671



この組合は、関東甲信越に静岡を加えた1都10県にある金型業界の健康保険組合として昭和46年5月に発足し、現在595事業所22,377人の被保険者（昭和62年7月）を抱えています。東京都に所在する総合組合の中位の規模です。事業所が工場である性格上都内を脱れて首都圏に分散され東京以外の組合員数が多くなっております。

金型とは鉄板、プラスチック、ゴム、硝子等の材料を使って型をおしたり、型に入れたりして物を作るための金属の型のことで堅い素材の特殊鋼等を削って作られたものです。

業界は1昨年までは2桁の伸びを示した成長産業でしたが、昨今は円高貿易摩擦NICSの追い上げをまともに受けております。

このような状況のもとでこの組合では組合員家族のため健康保険事業の推進を図っています。より健康で、より楽しく、活力ある生活を形作られるよう特に適切な治療と保健施設

事業の相関関係に注目して事業を運営しております。

本年はコンピューターの刷新により、適正、迅速な処理を行うとともに、医療費請求書と健康管理とのドッキングを行なっています。

施設事業については、事業所が散在しているので組合から事業所に足を運んでおり、諸検診、療養指導、健康指導、生活指導、食事指導、そして体育指導（金型リフレッシュ体操等）を行なっています。年間を通して医師、保健婦、栄養士、体育主事等が全事業所を歩き廻っております。

現在川治温泉に保養所をもってありますが、来年7月オープンを目指して箱根に21世紀向けの健康基地を建設中です。

組合の事務所は山の手線のガードを挟んで神田青果市場の反対側でサンキストのレモンの広告のある大東ビルにあります。



会員めぐり(3)

東日本麦酒卸売業厚生年金基金

〒101 千代田区神田佐久間町2-7 第6東ビル

TEL (862) 7068



より、やや浅草橋寄りの佐久間町に所在する。

東日本麦酒卸売業厚生年金基金は、JR秋葉原駅昭和通り口

佐久間町はその昔、この地区で材木商を営んでいた佐久間平八の姓に由来すると伝えられ、当時は、材木商、米穀商、薪炭商などの豪商が軒を連ね活気のある街を呈し、遠山の金さんが着流し姿で見回りを兼ね徘徊してい

たと伝えられている。さて現在では、当地区にもビル化の波が押し寄せ当時の面影の片鱗すらない。この基金の事務所は眺望もよく、明るい環境であったが、今その視野が段々と狭められており、これも時代の趨勢と云うのでしょうか。

この基金は、ビール卸売を主とする事業所が主体となって昭和48年9月1日設立され、現在事業所数355件、加入員10,700人、年金受給者1,400人と順調に推移しております。適用事業所は、神奈川、山梨、長野、新潟の各県を結ぶ以北の1道15県（除く東京都）と広範囲にわたっております。事業は、本来の年金給付はもとより、加入員に結婚祝金をはじめとする慶弔金の支給のほか、年金受給者に対し長寿祝品の支給等、福祉施設活動にも重点をおき、活発な運営を行なっております。

設立当初は、年金に対する関心も少なく、基金そのものの内容も不明な方々も多数あり

ましたが、時の経過と、国民の老齢化とあいまって老後の不安と関心が強まり、更に昭和61年度の厚生年金保険法の改正を期に基金に対する関心も一段と高まってまいりました。この基金では、増加する照会業務に対応するべくオフコンを導入し、加入期間、年金額の算出等サービスの向上に努めております。又事業所が広範囲に点在するため事務のサービスが思うようにできないのが現状のようですが、事業主、加入員のニーズに応えるべく、福祉施設事業の充実を図りながら前進に努めている姿勢が拝察できました。



「あすの政連」

政治連盟千代田・中央支部 幹事長 松 林 清 雄

会報26号に続き、「あすの政連」について、皆様の御協力を得ることになりました。

千代田・中央支部に政連は何を？ して責務をおわなければならないか、いくつかの問題提議を26号に問いかけておきました。

我らが社労士法は、29回の法改正がなされ18年間の経過しています。その間政連も出来、あり方についても変わってきています。

何故変わってきているかと申しますと、政治連盟の組織の強化、財務の強化を計る目的で支部の結成と相成りました。

支部結成が何故必要か、今後の政連機構にメスを入れる事だと思います。

支部は地方議員と結びつき、地方議員とコミュニケーションを保ち、身近な存在です。

又、地方議員は国会議員と「キッテモクレンナイ」親密な関係をもっていると思います。このつながりを、無駄にする訳にはいきません。

そこで、私達政連も、支部→東京会→連合会→法改正連盟→立法へと、飛び立てる心構えが必要かと思われまします。

いつでも行動に移せる組織の強化を計り、財務も豊かにして、我身分法が改正されることこそが、与えられた責だろーと思ひます。

そこで、我らが支部にメニューを少なくして、組織委員会、財務委員会を設置して、役員はもとより、皆様1人ひとりに参画して頂き、よき政連の実行力のある黎明を待ってやまないものです。

あ と が き

次回第28号は、新年号となります。会員のための会報ですから、ご要望、ご投稿をどしどし事務局宛お寄せ下さい。